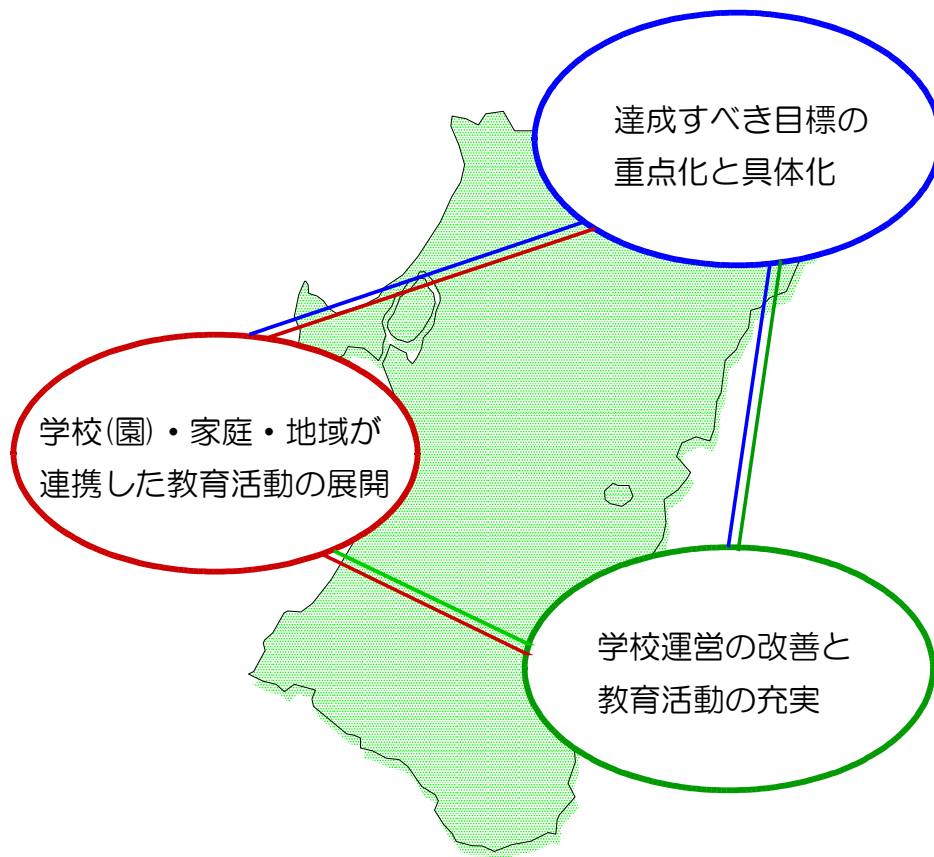


# あきた型学校評価システムの推進

～ 学校(園)・家庭・地域が一体となった学校づくり ～



平成20年6月

秋田県教育委員会

## 学校評価の導入

- ◎平成14年4月1日より施行された小・中学校設置基準において、自己評価の実施と結果の公表が努力義務化されるとともに、保護者等に対する情報提供を各学校が積極的に行っていくこととされました。
- ◎平成19年6月の学校教育法改正により学校評価の根拠規定が新設され、これを受け同年10月に、学校教育法施行規則において、①自己評価の実施・公表、②保護者など学校関係者による評価の実施・公表、③自己評価結果・学校関係者評価結果の設置者への報告、に関する規定が新たに設けられました。

## 学校評価のこれからの方向性

- 学校評価は、学校運営の改善や教育活動の充実につながるものが肝要であり、P-D-C-Aサイクルとして機能させる必要があります。
  - ①分かりやすく具体的な目標を設定する。(Plan)
  - ②設定した目標の達成を目指した具体的方策を展開する。(Do)
  - ③設定した目標や具体的方策がどの程度達成されたか(もしくはされなかったのか)の状況を把握し、その状況に至るプロセスにおいてなされた取組の適切さを検証する。(Check)
  - ④よかったところはさらに伸ばし、改善が必要なところは改善を加えていく。(Action)
- 学校評価を学校・家庭・地域間のコミュニケーション・ツールとして活用し、学校の教育活動を保護者や地域と一体となって展開していくことが求められます。

## あきた型学校評価システムの基本的な考え

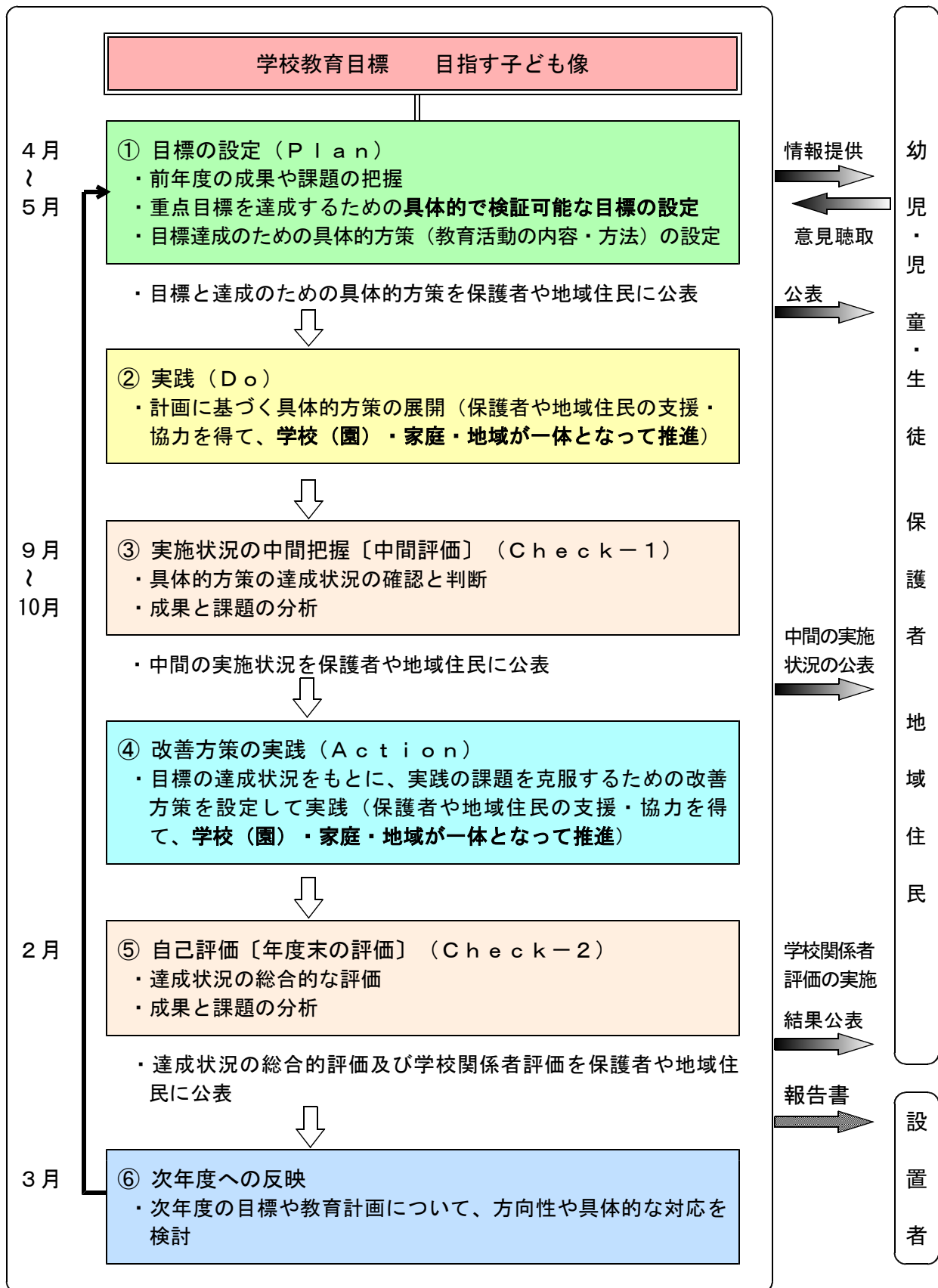
本県では、『みんなの登校日』等の取組を通して、学校と家庭・地域が一体となって、よりよい学校をつくっていこうとする基盤が形成されています。これまで各学校が培ってきた学校と家庭・地域との強い結び付きを生かして、保護者・地域住民の学校運営への参画を促進し、共通理解に立って開かれた学校づくりを推進することは、学校の教育力の向上にもつながるものです。

あきた型学校評価システムは、当該年度に達成すべき目標の重点化と具体化を図り、目標達成のための具体的な取組内容や推進状況を保護者や地域住民に公表するとともに、保護者や地域住民の支援・協力を得て、P-D-C-Aサイクルの流れの中で学校・家庭・地域が一体となって学校教育の充実・改善を図っていこうとするものです。 \*「学校」には幼稚園も含まれます。

### 3つのポイント

- ➡ 市町村の課題や各学校の課題をもとに、当該年度に達成すべき目標の重点化と具体化を図り、成果をできるだけ数値化して取り組みます。
- ➡ 目標と達成のための具体的方策を保護者や地域に公表し、目標の達成を目指して学校(園)・家庭・地域が一体となって取り組みます。
- ➡ 具体的な取組状況や達成状況、評価結果を保護者や地域に公表するとともに、結果に基づいた改善策を講じます。

# あきた型学校評価システムの進め方



\* 学校教育法施行規則では、学校関係者評価の実施と公表については努力規定になっていますが、「あきた型学校評価システム」では実施する形での全体の進め方を示しています。

学校評価シートの様式例

①	評価領域			
②	重点目標		P	
③	現 状			
④	具体的な目標			
⑤	目標達成のための方策			
⑥	具体的な取組状況			
⑦	達成状況		D	
⑧	自己評価	(評価)	(根拠)	C
↑	評価基準			
↓	A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
⑨	学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策			A

工夫 ➡ このシートは学校評価の例として示したものです。評価項目や評価基準のほか、中間評価と年度末評価のシートを別に作成するなど、様式や項目等を各学校で工夫してください。

参考 ➡ 大館市では、文部科学省から「学校評価システムの構築による義務教育の質の保証」（平成18・19年度）の研究指定を受け、市内全小・中学校が共通の評価項目・評価指標を設定して学校評価に組織的に取り組んでいます。研究の概要等は義務教育課のHPで公開しています。

## 目標の設定 (Plan)

### ① 評価領域

- ・教育計画の中から、重点的に対策を講じる領域を挙げます。  
「学習指導」「道徳教育」「生徒指導」「進路指導」「健康・安全教育」など

### ② 重点目標

- ・市町村の課題や前年度の学校評価の結果、学校運営全般の点検等を基に、学校の特色づくりや直面している問題の解決を目指す項目を重点化して設定します。  
「学力の向上」「体験活動の充実」「問題行動の減少」など

### ③ 現状

- ・重点目標についての前年度の達成状況と推進上の課題、幼児・児童・生徒の状況、重点目標として設定した理由等を記述します。

### ④ 具体的な目標

- ・重点目標を達成するために対策を講じる項目について、可能な限り数値目標を設定します。
- ・教育活動の中には数値化することが難しいものもあるので、その際には、できるだけ具体的な取組（例えば、「いつまでに、何を実施する」等）を指標にすることが必要です。

#### 【具体的な目標の例】

◇各教科の学習意識調査において、「授業が分かる」と回答する生徒の割合を次のように設定し、授業改善に取り組む。

昨年度の結果：1学期60%、2学期65%、3学期65% 今年度の目標：1学期70%、2学期75%、3学期75%

◇基本的な生活習慣の確立を通して遅刻者を出さない。

- \*数値目標は測定しやすく、評価もしやすいメリットがありますが、教育活動のすべてを表現するものではありません。数値目標の趣旨は、「ここまでチャレンジする」ということを分かりやすく示したものです。

### ⑤ 目標達成のための方策

- ・目標を達成するために取り組む内容や方法を具体的に記述します。

※④と⑤は、保護者の意見等を踏まえ、学校関係者評価委員会と協議して設定する方法も考えられます。

## 実践 (Do)

### ⑥ 具体的な取組状況

- ・目標を達成するために取り組んだ内容を具体的に記述します。また、参考となる集計データ等を分かりやすく示すなどの工夫をします。

### ⑦ 達成状況

- ・具体的な目標に対する実績を数値等で示します。

## 自己評価 (Check)

### ⑧ 自己評価

- ・教職員による評価と児童生徒や保護者によるアンケート等を参考にして、最終的に校長が判断します。

### ⑨ 学校関係者評価の意見

- ・自己評価の結果について学校関係者評価委員会が評価した内容（意見等）を記述します。

## 改善した実践 (Action)

### ⑩ 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策

- ・自己評価（中間評価・年度末評価等）及び学校関係者評価の結果をもとに、達成状況や実践の課題等を明らかにし、改善方策を記述します。

《学校評価シートの例（幼稚園）》

①

評価項目	教育課程・指導
------	---------

※①は幼稚園に合わせて名称を設定しています。

②	<b>重点目標</b>	小学校との交流活動の充実		P
③	<b>現 状</b>	本幼稚園は〇〇小学校の隣に位置し、主に就学前後の幼児・児童の状況についての情報交換、交流活動を以前から年1回行っている。		
④	<b>具体的な目標</b>	5歳児と1年生の交流活動を年に3回実施する。		
⑤	<b>目標達成のための方策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・双方の職員が保育・授業参観を行う。</li> <li>・年間指導計画に交流活動を位置付ける。</li> <li>・交流活動の指導案を、幼稚園及び小学校の教諭が共同で作成する。</li> <li>・それぞれのねらいに基づいた交流活動を展開する。</li> </ul>		
⑥	<b>具体的な取組状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・双方の職員が保育・授業参観を行うとともに、合同で研修会を実施し、それぞれの指導の重点事項を確認し合った。</li> <li>・小学校1年生の生活科と関連づけて年間の交流活動を共同で計画し、幼稚園の年間指導計画や1年生の生活科年間指導計画に位置付けた。</li> <li>・交流活動実施に当たり、共同で指導案を作成した。双方のねらいを明確にし、ねらいを達成するための具体的な活動内容、教師の役割等を検討し、教材の準備等も共同で行った。</li> <li>・5歳児の感想、1年生、5年生の振り返りカード等を参考に活動を見直し、次の活動に生かした。</li> </ul>		
⑦	<b>達成状況</b>	交流活動実施回数	5歳児と1年生 3回 5歳児と5年生 1回	
⑧	<b>自己評価</b>	(評価)  A	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生との交流活動のほかに、5年生との交流活動を実施することができた。入学後、1年生と6年生と一緒に活動する機会が多いことから、5歳児と5年生との学年設定はよかった。</li> <li>・年間を通した計画的な1年生との交流により、5歳児の小学校生活に対してのあこがれの気持ちの醸成や就学に際しての不安感の払拭等につなげることができた。</li> <li>・教職員同士が、互いの保育・教育に触れ、情報交換を密にすることで、幼児や児童の理解につながった。また、双方にねらいを定め、共同で指導案を検討し、計画的に実施することにより、互恵性のある交流活動に結び付けることができた。</li> </ul>	C
		↑ 評価基準	A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
⑨	<b>学校関係者評価と意見</b>	(評価)	(意見)	C
⑩	<b>自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策</b>			A

《学校評価シートの例（小・中学校）》

①

評価領域	学習指導
------	------

②	<b>重点目標</b>	学習意欲の向上				P		
③	<b>現状</b>	県学習状況調査の学習意欲調査によると、「学習の好き嫌い」に関する現学年児童の昨年度の実態は右表のとおり。算数、理科に課題がある。		国	社		算	理
			4年	5	4		4	5
			5年	4	4		3	3
			6年	4	4	2	3	
④	<b>具体的な目標</b>	「学習の好き嫌い」の算数、理科の評価値を、昨年度より1ポイント以上アップさせます。 *上表の評価値は、大好き・好きの合計が、80%以上を「5」、70%~80%を「4」、60%~70%を「3」、50%~60%を「2」、50%未満を「1」としたもの				D		
⑤	<b>目標達成のための方策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究会の充実…チームによる授業づくりと学年を超えた協議</li> <li>家庭学習の充実…手引きの改訂、家庭学習ノートの活用を徹底</li> <li>理科実験の充実…県の理科支援員等派遣事業の活用</li> </ul>						
⑥	<b>具体的な取組状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数・理科で授業研究会を年2回実施。指導主事と大学教員を指導助言者として依頼。</li> <li>家庭学習の充実をテーマに研修職員会議を開催し、ノート活用について共通理解。「家庭学習の手引」をリニューアルして、11月に配布。</li> <li>理科支援員を5年、6年で年間90時間以上活用。</li> </ul>						
⑦	<b>達成状況</b>	5年の理科、6年の算数・理科がそれぞれ1ポイント上昇した。しかし、逆に4年の理科が1ポイント下降した。		国	社	算	理	
			4年	5	4	4	4	
			5年	4	4	3	4	
			6年	4	4	3	4	
⑧	<b>自己評価</b>	(評価)  B	(根拠) ※取組の効果が見えてきている。 ○授業研究会での協議は改善の兆し。 ●チームによる事前の指導案検討会が、1回2時間程度にとどまっている。 ○家庭学習時間が5年、6年で微増。(県学習状況調査より) ●家庭学習の手引の改訂が後期にずれ込んだ。 ○理科支援員は大変効果的。 ※この目標は短期間では達成困難な目標である。3年計画で取り組み、全教科「4」以上を目指したい。 ●高学年の算数が依然として課題。				C	
			↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない					
⑨	<b>学校関係者評価と意見</b>	(評価)	(意見)				A	
⑩	<b>自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策</b>							

《学校評価シートの例（高等学校）》

①

評価領域	生徒指導
------	------

②	<b>重点目標</b>	・ 基本的な生活習慣の確立		P
③	<b>現 状</b>	・ 各学年に、遅刻や無断欠席、染髪や短いスカート丈、授業中の居眠りなど、基本的な生活習慣に課題のある生徒がいて退学者もでている。		
④	<b>具体的な目標</b>	・ 整容や遅刻、挨拶等の基本的な生活習慣の指導を通して、生活の乱れや問題行動による退学者を出さない。		
⑤	<b>目標達成のための方策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担任・副担任による全員面接を年5回実施して生徒理解に努める。</li> <li>・ 教職員間で統一した指導目標を設定し、共通認識を持って毅然とした態度で指導に当たる。</li> <li>・ 家庭や地域社会との緊密な連携を図る。</li> </ul>		
⑥	<b>具体的な取組状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学年部が面接計画を作成し、正・副担任が年間5回、さらに管理職がすべての生徒に少なくとも1回面接指導を行い、生徒とのコミュニケーションを図り学校生活への適応指導を行った。</li> <li>・ 1年次担任による家庭訪問や全職員参加による地区PTAの開催、学年報や学校便りの定期的発行等により、保護者や地域社会、関係機関との連携・協力関係の強化に努めた。</li> </ul>		
⑦	<b>達成状況</b>	・ 整容指導面ではまだ課題もあるが、面接が功を奏し退学者はゼロである。		D
⑧	<b>自己評価</b>	(評価) A	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整容や規律指導に関する学年・分掌間の話し合いが行われ、全校体制による指導の徹底が図られた。</li> <li>・ 面接による個別指導の効果も大きかった。</li> </ul>	C
		↑ 評価基準 ↓ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
⑨	<b>学校関係者評価と意見</b>	(評価)	(意見)	C
⑩	<b>自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策</b>			A



《学校評価シートの例（特別支援学校）》

①

評価領域	教育課程・学習指導
------	-----------

②	<b>重点目標</b>	一人一人の教育的ニーズに応じた「分かる授業・楽しい授業」の実践		P
③	<b>現 状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の障害を併せ有する児童生徒が60%以上在籍している。</li> <li>・一人一人の実態に対応した指導形態は、毎年工夫を重ねている。</li> <li>・昨年度実施の保護者アンケート中「子どもの能力・実態に応じた指導」について、約20%が「不十分またはやや不十分」と回答している。</li> </ul>		
④	<b>具体的な目標</b>	保護者アンケートの「子どもの能力・実態に応じた指導」項目で、「不十分またはやや不十分」という回答を10%以下にする。		
⑤	<b>目標達成のための方策</b>	次を実施し、一人一人の指導目標を明確にした授業作りに取り組む。 ①担当者間や保護者との話し合いの機会を増やす。 ②「個別の指導計画」の指導目標をより具体化し、指導内容及び評価に活かす。 ③保護者による授業参観の機会を設定し、共同で授業研究を行う。		
⑥	<b>具体的な取組状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別の指導計画」について、保護者との話し合いを学期に1回実施した。</li> <li>・「個別の指導計画」に示された指導目標を観点とした授業評価を取り入れ、保護者と共同研究を実施した。</li> </ul>		D
⑦	<b>達成状況</b>	目標としたアンケート項目の回答は12%であった。		
⑧	<b>自己評価</b>	(評価) B	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や関係者との話し合いを増やすことにより、児童生徒の指導目標をより具体的に与えることができた。</li> <li>・授業研究会等を通し、一人一人の授業のねらいが、必ずしも指導目標と結びついていない授業も指摘された。</li> </ul>	C
		↑ 評価基準 ↓ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
⑨	<b>学校関係者評価と意見</b>	(評価)	(意見)	C
⑩	<b>自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策</b>			A

学校評価シートの様式例

評価領域	
------	--

重点目標		P
↓		
現 状		
↓		
具体的な目標		P
↓		
目標達成のための方策		
↓		D
具体的な取組状況		
達成状況		

自己評価	(評価)	(根拠)	C

- ↑ 評価基準
- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
  - B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
  - ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策			A